

分科会報告 ②-2

1. コーディネイター 鏡谷貴子
2. テーマ 地域を元気にする食と農
3. 参加者数 11名 (宮城県1名 山形県10名)(山形県1名欠席)
4. ディスカッション内容

はじめに

この分科会は女性5名、大学生1名、高校生5名のメンバーです。

皆さん、まず初めに自己紹介を簡単にしてください。

- ・会社員：食の安全安心そして地域の良さを見直し発信していきたい。
- ・公民館勤務：農家に生まれ米の普及活動や子育て委員などをしながら参加5回目
- ・味噌醤油造り：古くから守り続けて地域に発酵食文化を勤めています。
- ・ライター行政書士：ライターを通し行政書士になり改めて食に向き合い地域の食の豊かさを内外に伝えることをしたい
- ・商業高校生：クラブで果物を使った商品開発を考案中
- ・ // :クラブでは酒の消費が減っていることから酒粕をメインに商品開発を考案中
- ・ // :クラブでは蕎麦とりんごの名産なことからお菓子を考案中
- ・ // :観光客で外国の方が増えている。日本や米沢の食文化を伝えることができたらいと思う。
- ・ // :同じく訪ねてくれた外国の方に米沢の魅力をどんな形で伝えられるか？
- ・大学生：出身は石巻で山形市の大学生です。地元を離れて外から見直すと改めてその魅力がわかった。現在住んでいる山形は出来たら将来住みたいと思うくらい大好き。そんな魅力をストレートに伝えられるようになるといい。
- ・料理講師：発酵食品と地域の庄内野菜で時短料理教室主宰、地域の食材を生かすレシピ考案。

内容

- ・地元のいい食材や食文化を上手に内外に伝えるのが下手だと思う。
- ・同じ県内でも、美味しい食などを全く知らないことがある。
- ・伝えたいことを見える化して広く伝えられたら嬉しい。
- ・地元の食材を広く知ってもらうために誰も考えたことのないことを工夫したい。
- ・フルーツ王国と言われている山形の果物をどの季節でも加工食品で味わってもらいたい。
- ・商品開発は他人任せではなく、素材や地元の歴史を知ることで発見できることもある。
- ・地元に住んでいながら、興味のなかった歴史や場所を、お客さまを案内することで発見や気づいたことが多い。英語の勉強の機会にもなった。
- ・地元があまり好きではなかったが、高校で地域の食や歴史を勉強することで再発見することになった。地元を離れても良さを伝えられると思うようになった。

- ・高校生としてのできることはまず地元を知ることからと始めています。
- ・毎日の食生活からまずは見直して行きたいと思っている。
- ・お弁当や食事はいつも母が作るが、先日母が具合が悪く私が作りました。改めて工夫したり考えて作ってくれてるんだ。と、今ではしみじみ美味しいと思えるようになりました。ちょっとした刺激やリスクがないと気づきはできないものなのかな？とも思いました。
- ・地元の農家さんは金銭的に大変なのかとも思うが、アピールが不足しているように思う。たとえばさくらんぼ。観光農園、直売所などの売り方や広告、看板などに不満を感じる。
- ・地域食材のブランド化を勧めて、内外にアピールしたい。
- ・何気なく食べていた食材が実は、高級食材だったことが県外に来て初めてわかった。もったいない食べ方をしていたと思った。反対に地元食材のアピールが必要かと思った。

まとめ

- ・食のイベントなどに参加しているが、開催の意味をいつも考えながら参加しているつもり。こちらは何度も参加しているが、他地域の方と今回は高校生の意見も聞くことができ若い世代の考えがしっかりしていることに驚き、改めて考える機会をいつももらっている。
- ・今私たちに出来ることは、山形県は食の豊かな地域ということ再度皆が認識することで地域の価値を見出し個々に伝えることができるのでは？
- ・モノづくりにはストーリーが必要でアイデアを練っていく過程、掘り下げていくことで付加価値を見出す若い活力が地域を元気にして行く連鎖ができるといいですね。
- ・若いアイデアはこれからの地域へ不可欠。食と農に新しい風を吹き込んで欲しい。
- ・高校生の私たちにとって、色々な世代の意見を聞くことは考え方、見る方向などを知って大変刺激を受けました。
- ・地域の良さを知り、地域の魅力を伝える力に変えて行きたいと思った。
- ・自発的に地域を考えて行くことは山形の良さを商品開発に繋げていきたい。今まで企業に頼ればいい商品ができるのでは？と安易な考えが甘いと認識した。ターゲットを絞りきつと今までにない商品を作りたいと改めて思った。
- ・高校生の新商品開発を楽しみにしています。
- ・何でも安く手に入る時代だからこそ、安全、安心の食に関心をもってそれを若い世代は認識して欲しいと思う。
- ・山形県の食の豊かさを知りそれを支えている農家さんがいることの有難さを思った。美味しいもので満たされている実感を再確認して県内外に伝えて行きたい。
- ・この交流会で異世代の方の分科会は最初はどうなるのかな？とも思ってましたが、高校生はしっかりと自分の意見や考えを伝えることができ頼もしいと思った。